

しずくしい 議会だより

No.71

●平成21年10月22日発行

発行／雫石町議会

〒020-0595 岩手県岩手郡雫石町千刈田5番地1

電話019-692-2111 ファックス019-692-2828

ホームページアドレス <http://www.town.shizukuishi.iwate.jp/>

編集／議会広報編集特別委員会

●今号の主な内容

9月定例会のあらまし…2～4

決算報告 町当局に4項目の意見を提言…5

決算特別委員会

事業成果を徹底チェック…6～9

町の考えを問う

一般質問 6議員が登壇…10～15

常任委員会の活動報告…16～17

先進地に学ぶ…18～19

追跡レポート…20

議員クローズアップ…21

皆さんからのご意見／ふるさとへの便り37…22～23

9月定例会のあらまし



平成20年度決算の審査結果を報告する前田隆雄委員長と田中栄一副委員長

平成20年度決算を徹底審議の上認定

平成21年第7回定例会は、9月4日から9月16日までの13日間の会期で行われました。

本定例会では、報告案件が1件、承認案件が1件、条例の一部改正が2件、補正予算案件が8件、町道路線の認定案件が1件、決算の認定案件が12件、工事請負契約の変更案件が1件、財産の取得案件が3件、継続審査となっていた陳情が1件ありました。

一般質問は2日間にわたり計6人が登壇し、新型インフルエンザ対策、地域医療、交通体系再整備、町内建設業者育成、国保税などについて大きくは15項目にわたり町当局の考えをたしました。

平成20年度決算を審議するため、決算特別委員会が設置され、一般会計、特別会計、企業会計の12会計を3日間にわたり慎重に審議しました。

本会議においては、決算特別委員長の審査報告後、討論を経て、12会計とも全て決算が認定されました。

■条 例（主なもの）

○零石町国民健康保険条例の一部改正について（全会一致で可決）

健康保険法施行令の改正によって、被保険者が平成21年10月1日から平成23年3月31日までに出産したときに支給する出産育児一時金が35万円から39万円となるものです。

■専決処分の承認

○零石町一般会計補正予算（第3号）（全会一致で可決）

補正前の額	補正額	計
77億8,015万5千円	577万5千円	77億8,593万円

▶林道施設災害測量設計業務委託料 577万5千円

■補正予算（主なもの）

○雫石町一般会計補正予算（第4号）（全会一致で可決）

補正前の額	補正額	計
77億8,593万円	13億3,285万4千円	91億1,878万4千円

- ▶ 高速情報通信基盤整備工事 8億9,400万円
- ▶ 上野沢地区移動通信用鉄塔施設整備工事 8,190万円
- ▶ 子育て応援特別手当 1,440万円
- ▶ 雇用促進住宅用地・建物購入費 3,871万2千円
- ▶ 工場等設置奨励補助金 1,786万7千円
- ▶ 町内共通買物券事業費補助金（3回目）1,129万2千円
- ▶ 西根小学校太陽光発電設備設置工事 1,995万6千円

○雫石町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）（全会一致で可決）

補正前の額	補正額	計
18億9,891万3千円	1,217万1千円	19億1,108万4千円

- ▶ 出産育児一時金（増） 500万円
- ▶ 国庫支出金等返還金（増） 506万6千円
- ▶ 一般会計繰出金 170万円

○雫石町老人保健特別会計補正予算（第1号）（全会一致で可決）

補正前の額	補正額	計
191万4千円	167万9千円	359万3千円

- ▶ 国庫支出金等精算返還金（増） 167万9千円

○雫石町下水道事業特別会計補正予算（第2号）（全会一致で可決）

補正前の額	補正額	計
11億1,940万1千円	141万5千円	11億2,081万6千円

- ▶ 公共汚水樹実態調査人夫賃金 92万1千円

○雫石町介護保険事業勘定特別会計補正予算（第2号）（全会一致で可決）

補正前の額	補正額	計
11億2,632万1千円	1,385万8千円	11億4,017万9千円

- ▶ 介護給付費準備基金積立金 967万2千円
- ▶ 国庫支出金等精算返還金 245万9千円

○雫石町立雫石診療所特別会計補正予算（第1号）（全会一致で可決）

補正前の額	補正額	計
10億6,620万6千円	4,484万5千円	11億1,105万1千円

- ▶ 臨時看護師賃金（増） 289万5千円
- ▶ (仮称)町立健康センター新築工事(増) 3,248万4千円
- ▶ 医療機器購入費（増） 718万3千円

補正予算の主な質疑

問 町が雇用促進住宅の用地建物を購入する件では、80戸入居可能のうち52戸が入居しているということであるが、上階の方は非常に不便ということで空いている。町外からの入居者をうまくたちで募って人口増加に結び付けられないか。

答 雇用促進住宅の廃止ということになれば、現在入居している方々は当然町外に流出もあるだろうが、何とか現状の形で優良な住宅を提供したい。ただ、公営住宅法に基づく町営住宅とは違う取り扱いをしなければならない。最上階はエレベーターがないということではやはり入居率が悪いが、これから取得し十分検討したい。例えば、当町に就職してくるが住居がない場合、その価格体系や条件を含めて入居しやすい料金設定をして有効活用を図りたい。

問 工場等設置奨励補助金の中身はなにか、固定資産税の免除分ということか。

答 川井林業の製材工場に関わるもので、投資額とか従業員の所定の条件を満たせば固定資産相当額を3年間にわたって奨励金として交付するもので、考え方は免除ではなく一旦支払っていただき、その後に同額を奨励金として交付する形となる。

問 菜種の搾油施設で、どれだけの原料を処理してどれだけの油を生産する計画なのか。町内外の農家から油を搾ってもらいたいという依頼を受けるのか。

答 現在、かし和の郷での菜種油搾油作業は、良質の生オイルで安定した商品をどうやればできるかという焙煎の温度とか、さまざまなところを試作する作業を行なっている。菜のテクプロジェクトとして、その計画の中でやっており他からの搾油の受け入れは考えていないが、空き具合で自家消費のようでは対応できるということであれば十分検討したい。

問 五区のコミュニティー消防センターは公民館機能を併設した施設なのか。よその集落には消防屯所併設のコミュニティーセンターについて、どのように説明しているか。

答 消防屯所機能を有している集落の中で、そういう希望があれば地元と協議をしながら検討し、屯所機能を有しない場合は生涯文化課で公民館整備という補助金制度の中で相談を受けることになる。

問 西根小学校の太陽光発電設備はこの学校の電気料のどの程度をカバーするのか。なぜ、この設備が西根小学校でなければならなかったのか。

答 西根小学校の年間電気料は590万円ほどかかっているが、今回10キロワットアワーの最大瞬間発電量で年間積算で15万円程度になる。また、西根小学校を選定した理由は屋根の防水シートが老朽化して雨漏りが激しい状況にあり、その防水シートの改修工事とあわせて実施するものである。

問 高速情報通信基盤整備工事の範囲はどの地区あたりか。子育て応援特別手当の該当者はどれくらいで、いつごろ配られるのか。

答 現在NTTが光通信サービスを実施している町の中心部があるが、それ以外の地区全部が範囲である。21年度版の子育て応援特別手当は、第1子から対象になり3歳以上就学前で400人と見込んでいる。一人当たり3万6,000円で、11月以降の配布となる。

こうなりました 請願・陳情

○肺炎球菌ワクチン公費助成についての陳情（不採択）

陳情者／岩手県保険医協会 会長 箱石 勝見

ワクチン接種の重要性については十分理解できるものの、町の財政負担を伴うものであり、予防接種法による予防接種ワクチンとして承認されていないことが懸念されることから不採択としました。

■請負契約の変更

○（仮称）町立健康センター新築（建築・外構・解体）工事請負契約の変更に関し議決を求めることについて（賛成多数で可決）

補正前の額	補正額	計
6億1,551万円	4,640万550円	6億6,191万550円

▶杭工事工法の変更と土工事の追加 4,640万550円

問 杭打ちが始まったのは大体5月ごろだったが、なぜ今になって変更というのか、現場としてはいつごろ気がついたのか。また、杭打ち工法が変わったというが、設計の時にどのような地質調査をやったのか。

答 4月から5月ごろだったが、地下に予想以上に転石があり、このままでは工期が延び金額も増えることから工法等を変更した。また、地中に昔の診療所の基礎部分があって掘削に時間を要した。平成17年に基本設計を実施したが、その際に4カ所のボーリング調査をしたが、旧診療所の基礎については分からなかった。

問 杭工事で問題が発生した際に、担当者をつけたからいいということではなく、それなりの技術者なり、経験者なり、担当課があるわけだから、なぜ横の連絡を取らないのか。

答 技術者の応援対応はしていたが、なかなかそこまでうまくいかなかったことについては事実だった。旧国保診療所の図面、図書をなにも持ち合わせなくて、甘くみていたのが一番の原因だ。横の連携とか、そういった部分については十分この教訓を活かしながら体制の整備を図っていきたい。

臨時会

平成21年第6回臨時会は、7月2日の1日間の会期で行われました。一般会計補正予算を可決し、監査委員の選任に同意しました。

■補正予算（主なもの）

○一般会計補正予算（第2号）（全会一致で可決）

補正前の額	補正額	計
76億4,916万1千円	1億3,099万4千円	77億8,015万5千円

▶橋梁点検業務委託量 853万9千円
▶教材備品購入費（増） 1,060万5千円

▶防災行政無線親局更新工事 3,429万3千円
▶曲り屋等屋根葺き替え工事 3,177万2千円
▶町営体育館管理備品購入費 3,336万3千円

■人 事

○栗石町監査委員の選任に同意（全会一致で可決）

新任 枇 杷 恵 氏
（上町一、二行政区在住）

任期：平成21年7月2日～平成25年7月1日

町当局に4項目の意見を提言

意見

1

ゴミ不法投棄禁止の看板に、行為を見つけた場合の連絡先を入れることにより住民の監視が図られるのではないかな。

意見

2

集団資源回収に奨励金を出しているが、地域コミュニティも50近くになっており住民も分別には関心が増してきた。新聞紙、段ボール等の資源ごみは、コミュニティ事業に多少なり奨励金を出し、事業に取り組むことで地域の意識改革にもなるのではないかな。

意見

3

観光歓迎塔はかなり老朽化しているものがあり撤去が計画されているが、立派なものが国道46号沿いの町の玄関口にあれば、非常に観光PRに役立つと思われる。撤去するだけでなく、既存のもの有効活用や新しいものをつくることを検討していただきたい。

意見

4

町発注工事において、設計、施工監理は適切な工事遂行、品質の良い物件にするため、個別の業者に発注をするべきではないかな。

監査意見



本会議で監査意見を述べる
枇杷恵監査委員

監査委員による決算審査は、公営企業会計は6月29日、一般会計並びに各特別会計、基金運用状況、財産調書は7月21日から8月7日まで行われました。本会議で報告された監査意見書の中から、内容を要約してお知らせします。

決算監査意見書

歳入において、町税を主とする自主財源は37.2%を占め、前年度と比較し1.3%減少している。自主財源は自治体の自主性、自立性を表すものであり、今

後ともその確保に努められたい。また、収入未済額は前年度より増加していることから、早期に実態を把握し、適切な処置のもとに収入の確保に努力されたい。

行政に対する住民の要望は多様化しつつあり、財政的には依然として厳しい運営が続くものと推察する。住民の福祉の増進は行政の基本的課題でもあることから、限られた財源を有効かつ効果的に運用し、各事務事業等について常に点検しながら事務遂行されることを望むものである。

平成20年度の一般会計、特別会計および企業会計予算を認定することに対して討論が行われましたので、その内容を紹介します。

反対

伊藤哲夫議員

今の経済情勢は本当に厳しい情勢にあり、町の財源も非常に苦しい現状にある。ましてや住民の間にも生活苦という状況が続いている。この点からこの決算を見ると本当に住民の立場に立っていない点が多々あり、不用額も出ている。経済情勢が厳しい折には不用額を出さないような予算を計上し、さらには補正予算で予算減額をするような事態はしないで済むように行うことが大切だと思われ反対するものである。



賛成

谷地善和議員

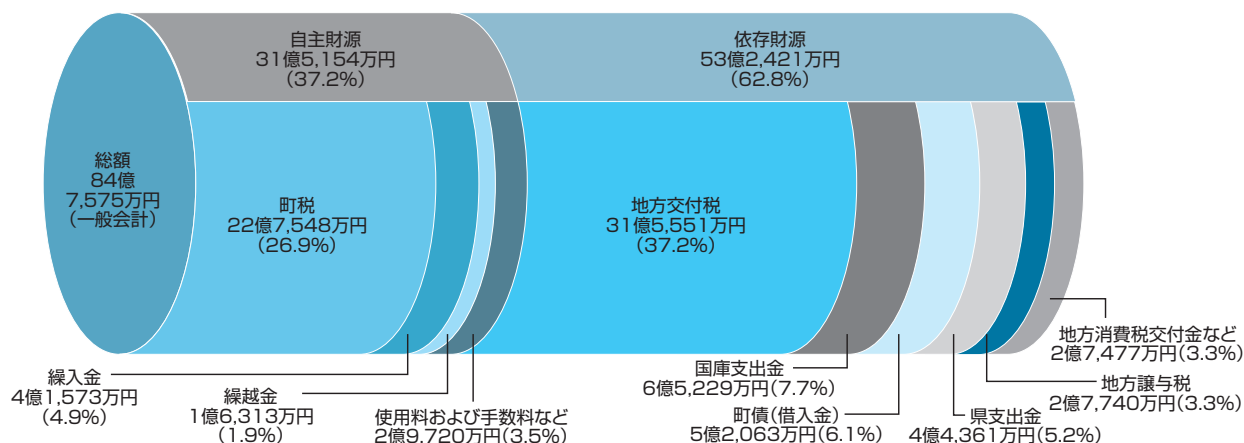
昨年度は世界同時不況と言われながらも、水辺公園や菜種油の搾油施設、BDF（バイオディーゼル燃料）の精製施設が整備され、銀河ステーション内には驛田舎産直もオープンした。

また、プレミアム商品券の発売や中学校への学校支援員を配置、庁舎玄関でのフロアマナージャーの取り組み、災害復旧等いろんな施策に取り組んだ。

年度末の町債残高も約72億円まで減らし、財政健全化法に基づく各指標も基準を下回っており認定すべき決算であり賛成する。

数字で見る決算 一般会計

歳入の内訳



歳入・総務費

問 歳入が過去数年間を見ると収入率が低下傾向にあり、収入未済額、欠損金額の割合が増加傾向にある。その分析、見通し、対策は。

答 平成20年度の収入率全体で前年度を若干下回り非常に残念な結果であった。大きな要因として固定資産税で大口の減があったために下回る結果となった。なお、税源移譲により個人町民税の調定額が大幅に増えたことにもよる。対策として目標数字を定めながら収入未済額の圧縮に努めたい。また、町民の税に対する意識を高めていくことも大事である。

問 「いわて夏まつりイン小岩井」の事業について今後の見通しは。

答 県の補助金で対応してきたが3月で終了し、今年度からは単費で継続し、今年は滝沢村から50万円の負担をいただき、今また盛岡市に働きかけて、今後一つの「いわて夏まつりイン小岩井」という定着したイベントに育てていきたい。

問 各診療所の先生方の高齢化に伴う後継者対策は。

答 全国的な医師不足の中で現状は厳しいものがある。先生方には、例えばご親族の方など、いろんな面から後継者のお願いをしている。

問 プレミアム商品券について、3回目の実施することになったが、その経済効果や地域再生産に結びつくのか所見を。

答 消費者、商店の方々を活気づけ、消費行動が起こることを願っている。3回目は歳末の需要の多い時期に行い、町内の利用を促進したいとの思いである。今後は、当然メリット・デメリットの議論があると思うがもう少し定着状況を見ながら判断していきたい。

衛生費・民生費

問 福祉センターの補助金の中に建設に係る償還金が含まれていると思うが、今年で償還が終わると聞く。補助金がなくなると運営が苦しくなるとの懸念の声があるが、どのように考えているか。

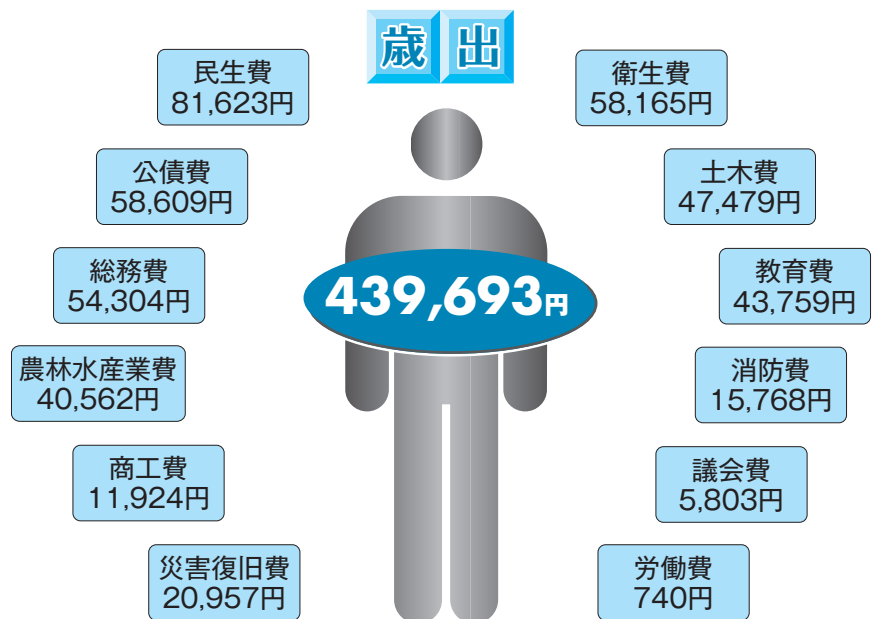
答 起債の部分で町が応援してきたが、基本的に福祉センターは社会福祉法人の所有である。運営等は社会福祉協議会の理事会等で決めたことについて協議を受け、考えていきたい。また、町へ寄附するといふのであればその部分も含め十分検討していきたい。

町民一人あたりの金額

平成21年3月末
人口18,752人で試算

ワンポイント解説

民生費…主に高齢者、障害者、子どもの福祉に使うお金
公債費…町債（借金）返済に充てる経費
商工費…町内の商工業の支援や観光振興などに使うお金
災害復旧費…昨年発生した災害の復旧作業に使うお金
労働費…雇用対策や勤労者の支援に使うお金
衛生費…ごみ処理や母子保健、検診などに使うお金



問 敬老会の委託料が地域により一律ではないような気がするがどうなっているか。

答 敬老会は町内9会場で開催し、運営は婦人会、区長、民生委員で組織する実行委員会に委託している。式典形式にはアトラクション代30万円と1人あたり500円の記念品で、祝宴の場合は1人あたり飲み物代1,500円と500円の記念品でお願いしている。各地区ごとに工夫を凝らし、敬老精神を持って地区の特徴を出していることから、当面、今の形で進めていくのがよいと考えている。

問 一般会計から国保会計に繰出金が出ている。拡大していけば一般会計を圧迫するが、少なくとも努力や方策はどう考えているのか。

答 まずは医療費がかからないよう住民に特定検診を24年まで受診してもらい、早期治療と予防に努めてもらう。また、新型インフルエンザ等の蔓延の場合は繰り出しもやむを得ない。保険料を上げるのが一番の常とう手段と思うが、今の経済状態の中では、特に自営業者や農家が多い我が町としては、しかるべき時には、住民の理解もいただかなければならないと思うが、今はそういう時期にはあらずということで歯を食いしばり頑張っていることを理解していただきたい。

問 健康上も国見やありねの温泉に行きたいが、加齢や免許返納により足がないとの声が老人の方々から多く聞く。国見の湯も含めどう考えているのか。

答 国見については湧出量も減り、建物も老朽化の中でアンケート調査も意見が半々で苦慮している。足については、ありね山荘は工夫を凝らせばデマンド対応も考えられるが、国見となると難しい。ただ、本当に多くの町民が行くのであれば方策を考えなければならないが、国見温泉のあり方も含め振興策も十分検討していきたい。



町内外に人気のあるありね山荘（12月3日まで改修工事中）

農林水産業費

問 本町でも近年急速に伸びてきている苗箱任せ農法を推進支援していく必要もあるかと思うが。

答 J A(南部営農センター)と農家が一体となり、稲作技術向上と食味維持、コスト縮減に取り組むことであれば町として協力を惜しむものではない。

問 生産費調査、また標準小作料はどのようなデータで算出されているのか。

答 生産費の基準として約3ヘクタールの農地を経営した場合を準拠として生産費用を算出している。標準賃金、小作料についても同様。大きな変動がない限りは、3年に1回の見直しということで事務を進めており、今回は平成22年度を予定している。

問 駅南の産直施設は当初計画では毎日開催するとなっているが、土曜の夕市だけなのか。

答 現在、土曜の夕市だけの開催となっている。協議会を設置し、鋭意検討中である。



産直施設のさらなる活用を望む

問 4月中旬にオープンした^{えきなか}驛田舎産直からホテル、旅館への食材供給の現状は。

答 8月末までのホテル、旅館への地産事業の販売高は、当初計画の約70%の実績である。今やっ^と地元産の新鮮なものを使いたいという声が高まってきている。一般のお客さんにも利用していただくなど、計画目標に向け頑張りたい。

問 アグリリサイクルセンターの平成20年度の収支状況は。

答 平成20年度アグリリサイクルセンター収支決算書報告によれば、収入が4,586万円、支出が5,252万円となっており、約666万円ほどの赤字というJ Aからの報告である。

問 コテージむらのすばらしい景観を活かして、パークゴルフ場の整備を考えてはどうか。

答 町だけでなく4者(雫石町、岩手県、農業公社、地域住民)に関係することであるため、全体の中での検討が必要となる。

問 強い農業づくり事業が展開されたが、産地間競争、経営力強化を目指す事業とも考えられる点で、もっと広く農家に知らせて取り組むことではなかったか。

答 この事業の取り組みについては多少の制約があり、担い手農家で組織されている法人組合、集落営農組織組合などが該当する事業であり、各農家まで説明が生き届かなかったと思う。

問 林業総務費の中に出資金、岩手中央森林組合出資金が計上されているが、関連町村の各出資額は。

答 岩手中央森林組合への出資について、雫石町112万円、紫波町101万円、岩手町80万円、矢巾町30万円、八幡平市28万円の負担出資となっている。

商工費

問 南部よしゃれ全国大会の開催は、よしゃれの普及にどのようにプラスとなっているか。観光客の来町、誘客にどのように寄与されてきているか。

答 8月は雫石町のよしゃれ月間であり、南部よしゃれの歌、踊りの普及、尺八、また、本町の観光振興に一役を着実に担ってきている。1日目が予選会、2日目が決勝大会となるまで頑張りたい。

問 健康いやし型滞在観光推進事業の概要は。

答 仙台圏を中心としたモニターツアーを行っている。町内を周遊しながら、いろいろな体験をしていただき、意見をいただいて新たな観光メニュー、商品開発を目指す事業であり、鶯宿温泉観光協会と一緒に進めている事業である。

問 南昌第一トンネルについて、スリップ事故もあったようだが管理はどうなっているか。

答 矢巾町と2町で管理委託をし、二分の二つ管理費を支払って管理している。スリップ事故は、トンネル内外の温度差が大きくなると路面がぬれた状態がひどくなって発生することもあり注意して走行してもらいたい。

消防費

問 消防団員確保の一環として機能別消防団員制度の導入は考えてないか。

答 今後具体的に消防団と詰めていきたい。

土木費

問 町営住宅は年1回しか入居募集しないのか。空いた都度ではないのか。

答 年1回と言う決まりではない。古い住宅は募集しても申し込みがないので、その都度募集はしてない。新しい住宅は空いたら募集するようにしていきたい。

問 ユニバーサルデザイン全国フォーラムの参加者が非常に少なかったが、どのように総括したか。

答 考え方が普及してないことと、アピールの仕方が下手だったことを反省している。色んな工夫を凝らして啓発普及に努める。

教育費

問 全国大会まで開催している雫石よしゃれを、町の指定文化財にするべきでは。

答 団体を指定して、来年の10周年大会に間に合うように、今年度中に指定することで進めている。

問 中学校問題のその後と今後のために課題の整理が必要では。

答 改善された。今後の課題は保幼小連携、小中連携、中高連携を一本筋を通したものにすること、また、教育振興運動で家庭、地域の教育力を高めていかなければならない。

問 東京芸大の合宿招聘事業委託料はよしゃれ祭りの補助金とほぼ同額だが、どのような成果があるのか。

答 入場者は少ないが、子供たちが本物の音楽を体感できている。

特別会計

問 国保税の収納率は74.9%で県内19番目である。75%に減った給料に例えて見ると、耐乏生活か、収入を増やすかである。収納率アップのために行政力アップの必要があるのでは。

答 目標を1つずつクリアしながら職員一丸となって進めている。

問 以前新しい内視鏡を購入して大分評判がよかったが、その後の使用状況はどうなっているか

答 6月で副所長が退職し、使える先生がいなくなったが、9月からは月2回検査応援をしてもらっている。

雫石町の財政健全化法に基づく各指標

平成19年度決算から公表が義務付けられた財政健全化判断比率が9月定例会で報告されました。

4つの健全化判断比率により、どのような財政状況かを判断する基準として早期健全化基準や財政再生基準があり、基準を一つでも超えると財政健全化計画や財政再生計画を定め、財政の健全化や再生に取り組むことになります。

健全化判断比率	雫石町		早期健全化基準	財政再生基準
	平成19年度	平成20年度		
実質赤字比率	－%	－%	14.45%	20%
連結実質赤字比率	－%	－%	19.45%	40%
実質公債費比率	17.4%	16.8%	25.0%	35%
将来負担比率	139.1%	136.9%	350.0%	－

- 実質赤字比率**…普通会計の赤字の程度をあらわす指標。黒字の場合は表示されない。
- 連結実質赤字比率**…町のすべての会計の赤字の程度をあらわす指標。黒字の場合は表示されない。
- 実質公債費比率**…普通会計の借金返済額と、一般会計から特別会計や一部事務組合などへの補助金などのうち借金返済額

に充てた額の合計を指標化したもの。

- 将来負担比率**…普通会計の借入金残高だけでなく、職員の退職給与引当金、特別会計の借入金残高、第三セクターなどの借入金残高に対する一般会計の負担見込額など、将来支払が見込まれる額を指標化したもの。



質問者／
かとう ますみ
加藤真純 議員

(仮称) 町立健康センターの医師確保は

町長／供用開始までに目途を

加藤議員 (仮称) 町立健康センターは、建物も新しくなり地域包括支援センター機能を併せ持つてスタートすることになっているが、その中身の運営によっては、「仏作って魂入れず」ということにもなりかねない。体制は充分か、特に医師確保の面でどうか。

町長 本年6月末で雫石診療所の副所長が都合により退職され、現在常勤医師は所長だけだが、非常勤医師2名と月1回消化器等の検査のための応援医師など、診療に支障がないよう体制を整えている。しかし、健康センターの機能を強化する上からも、常勤医師の確保は必要であり、一部供用開始までには医師確保の目途をつけたい。

加藤議員 医師、看護師のスキルアップの方策はどうしているか。

町長 最新の医療情報収集、職員の資質向上を目的に、医師、検査技師、看護師等専門の研修会派遣、所内研修会開催等、計画的に研修を実施している。

加藤議員 夜間・救急医療への対応はしないのか。

町長 これまでどおり盛岡市保健所管内にある、盛岡市夜間救急診療所及び県立中央病院などの2次救急病院での受診となる。

誰でも自由に亀甲織が織れるようにできないか

加藤議員 基本的にその地域の特

産品は、法的制約があるもの以外は、その地域の作りたい方々が皆で競い合いながら自由に作り、発展させ、より良いものとしながら、町共有の文化として伝承させていくべきものであるはずだ。しかし、亀甲織については、その精神や町の活性化に逆行して、特定の人しか作れないような仕組み(意匠登録)にして、それを作ることを楽しみにしてきたお年寄りの方々の楽しみを奪っていると聞く。意匠登録など必要とは思わないが、どうしても必要なら、町全体でそれを登録し直し、町民誰でも作りたい人が楽しみながら作れるようにしていく方策が必要であると考えるが、町の見解はどうか。

町長 既に一度、亀甲織で意匠登録をした経緯があり、改めての登録はできない。しずくいし麻の会は、国内で唯一麻の栽培から製品製造、販売まで手がけている団体であり、ぜひ気軽にどなたでも入会をしていただき、亀甲織りを織ってもらえればと思っている。



町の伝統工芸品である亀甲織を気軽に作れる方策を

質問者／
上野^{うわの}
三四二^{みよじ}
議員



コテージむらを観光農園構想に転換しては

町長／県など関係4者協議に提言したい

か乗り入れ便を限定するなど検討したい。

南畑・鶯宿エリアを滞在型のスポーツ観光拠点に

上野議員 南畑地区にある町営屋内ゲートボール場を拠点に、ケッパレランド、ウォータージャンプ場、鶯宿グラウンド、南畑小学校体育館の利用が高まっている。拠点町有地を有効活用し、手づくりなどによりグラウンドゴルフ場、パークゴルフ場を増設整備することで合宿や大会誘致が期待でき、このエリアで滞在型のスポーツ観光が可能であると考えますが、これを進める考えはないか。また、2順目国体の本町開催予定のアーチェリー競技の競技場はどこにするのか、アーチェリーを町のスポーツとして普及をどう進めるのか。

町長 この地区には施設が集中しており、スポーツ合宿など誘客効果が期待できる。滞在型のスポーツ観光は、本町の今後の観光振興を図る上で重要であるにとらえている。

教育長 国体のアーチェリー競技のメイン会場は、総合運動公園陸上競技場とし、練習会場は町営野球場、雫石高校グラウンド、雫石中学校グラウンドを予定しており競技場の新設は考えていない。アーチェリーの普及は県協会と連携し中学生以上に進めていきたい。

上野議員 南畑地区コテージむらの整備は、本町が先行した事業整備だけで岩手県が主導する事業にもかかわらず進んでいない。地域発展の施策転換として、この地域の景観立地を活かして全国に誇れる通年型観光農園、例えばラベンダーや野菊など大規模な花畑等、入場収益を目的とした観光地構想に切り替えてはどうか。

町長 今まで交流事業に合わせ、ひまわりや菜の花の観光作物を栽培してきたが、連作障害や除草など管理不十分で不良であった。議員提案のラベンダー農園など観光地構想について県や農業公社など関係4者協議に提言し検討したい。

網張ありね山荘にもあねっこバスを

上野議員 デマンド化している、あねっこバスの路線や時間帯などを見直すとともに、利用者検証を行い改善が必要ではないか。また、温泉など観光地の多い当町の2次交通対策をどう進めるか。町民の熱望である網張ありね山荘までの路線延長の設定など方向を示されたい。

町長 平成20年度の利用落ち込みもあり改善を検討している。路線やダイヤも利用者の要望に基づき対応したい。2次交通としての観光地運行は温泉地などが散在しているため相当厳しいと考えている。ありね山荘までの路線延長については、冬場を除くと



質問者／
かわぐちかず お
川口一男 議員

雇用対策のため町内業者へ発注を

町長／業者の育成、受注機会の確保に取り組む

川口議員 百年に一度という大不景気で今までの対策として、公共工事の拡大で乗り越えてきたが、現状ではその策もないので、町発注の工事は町内業者だけを指名し入札を行うことが町内業者育成に結びつくと考え、また、町民の雇用対策につながると思うが、町長の考えを伺いたい。

町長 一般競争入札ではなく指名競争入札を基本とし、業者の選定については町内建設業者と近隣市町村に本社または営業所を有する業者を雫石町指名競争入札参加資格審査委員会において選定している。しかし、この景気が低迷している現在においては、国による各種経済対策も講じられているところでもあるので、行政としてできる範囲の中で町内業者の育成並びに受注機会の確保に取り組む。今年度も何件か総合評価落札方式で実施したいと考えている。

（仮称）町立健康センター建設について

川口議員 （仮称）町立健康センター建設の監理について、町当局は設計、指名、入札、契約と進み施工に入れば一段落という感じが見受けられて心配である。特に設計責任、施工責任、監理責任および保証がどうなっているか。

町長 設計と監理については同じ業者であり、施工は樋下建設である。監理は業務委託契約をしている。二週間に一度の割合で町工事関係職員、施工業者と打ち合わせ会議を実施して適正な工事の実施に努めている。保証については国の約款に基づいて鉄骨は2年、雨水の浸入を防止する部分については10年という条項にうたっている。また、屋根の部分については10年ということでの規程となっている。



町内業者育成のため受注機会の拡大を



年内完成に向け建設が進む（仮称）町立健康センター

質問者
いしがめ
石亀
みつき
貢議員



行財政情報の公表率の向上を

町長／多様な媒体で公表

しては早期の診断と抗ウイルス薬による治療等によって回復に向かったかに推移したが、現在感染者数は増加傾向にある。

本町も対策本部を設置、体制を整備していると何うが、どう対応策を取られているか。また、地域活性化・経済危機対策臨時交付金活用による薬品、防護服の備蓄など、特に具体的な対応計画が必要ではないか。

町長 新型インフルエンザの国内発生時の5月19日に「雫石町新型インフルエンザ対策本部」を設置、県内や発生時の危険レベルを想定した町独自の「新型インフルエンザ行動計画」を作成、感染者が発生した場合に町民の健康被害を最小限に止め町民の健康と生活を守る体制を整備している。発熱相談窓口の開設、普及啓発としてのポスターのほか、防災行政無線による広報活動を行い感染予防の周知に努めている。

石亀議員 住民の理解と協力を得ながら行財政運営の健全化を推進するには、行財政情報をより積極的に公表することが求められる。

県によると、市町村の行財政情報の公表率の調査結果では、県平均84.3%に対し本町の公表率は72.7%で県内30位と平均を下回っているが、今後どう対応するのか。

町長 行政改革実施計画等により取り組みを進めているが、今後は取り組み内容と成果についても他市町村の公表方法を参考としながら、内容や項目を検討し公表を進めたい。行財政情報の公表率が県平均をかなり下回っているが「住民に対する行財政状況の適切な情報開示」の観点からも、広報紙やホームページ等多様な媒体で分かりやすい行財政情報の公表に努めていきたい。

新型インフルエンザ対策は

石亀議員 平成21年春に発生した新型インフルエンザに対

平成20年度雫石町の行財政情報の公表状況（岩手県のホームページより抜粋）

	公表済み情報数	公表済情報の公表媒体（複数回答）								公表済情報の公表媒体数	公表率（%）
		広報誌	ホームページ	告示	情報公開コーナー	住民説明会等で資料配布	布専用冊子の配布	その他	計		
雫石町	58	21	26	8	26				81	1.4	72.7
県平均	66.8	36.6	49.2	21.9	15.4	2.1	1.5	1.9	128.5	1.9	84.3
市平均	79.4	42.8	66.9	32.4	22.3	1.9	1.5	2.4	170.2	2.1	86.5
町村平均	59.4	32.9	38.7	15.7	11.3	2.2	1.5	1.6	104.0	1.8	82.9



質問者／
いとうてつお
伊藤哲夫 議員

市場自由化への対応は

町長／優良で安全安心な産地づくりに取り組む

伊藤議員 米をはじめ農産物をめぐる情勢は、市場自由化、FTA（日米自由貿易協定）が締結されれば生産量の激減につながる。本町の基幹産業として農業は厳しくなる一方であり、これに対応する考えはあるか。

町長 農業情勢は米価の下落など大変厳しい状況にある。ミニマムアクセス米導入、FTA の締結など、食料自給率が 41% という現状の中でゆゆしき事態であると認識している。農林水産省の施策では、担い手、中核農家の育成、農業経営基盤強化法等に基づいていろいろ施策を講じてきたものと認識しており、特に米については、平成 16 年度からの米政策大綱に基づいて進めてきている。また、それから受けて平成 18 年度から品目横断の経営所得安定対策、転作絡みでは産地づくり交付金等で救済措置を講じながら進められているのが現在の農業だと認識している。本町農業全般を考えればただつくるのではなく、産業再生戦略会議において特徴のある米、農産物を雫石の農産物として売り出すために検討をしているところである。独自の農業施策の展開をもって優良で安全安心な信頼される産地づくりに取り組んでいかなければならない。

国保税について

伊藤議員 経済情勢のもとで雇用の問題等により、国保税を払えない人が増えていると思われるが現状はどのようなになっているか。

町長 町税収納対策の一環として、失業等で納税が困難になった場合には早めに相談するよう呼びかけ、納税相談に来庁した際には経緯や現況、見通し等をお伺いし、納税のありかたを一緒に検討しながら分割納付や経過観察するなどの対応をしている。また、本町では国民健康保険税減免要綱を定めており、失業や事業不振の理由により所得が減少、疾病やその他ややむを得ない事情により国保税の納付が著しく困難と認められる場合は、要綱に定めている割合で減免することとしている。



厳しさを増す農業情勢に対応する町の農業施策が切望される

質問者／
大村昭東議員
おおむらしょうとう



新型インフルエンザで雫石診療所に入院できるか

診療所事務長／入院措置はできない

緊急経済対策について

大村議員 本町ではどのような方針で、地方分権の土台となる地域再生、農村活性化に結びつく経済緊急対策交付金事業を行うのか。

町長 国の経済危機対策の趣旨を踏まえ、地域活性化のために速やかに実施したい。

文化財保存活用について

大村議員 地上デジタル放送中継所建設にあたって、生森山地蔵堂跡地樹形をほぼ完全にいとも簡単に破壊したのはどのような理由か。過去にも3度重要な遺跡を破壊したと聞いているが、文化財の掘り起こし、悉皆調査、保存活用はどうなっているか。

教育長 国、県、町が指定した32件の指定文化財に関するものを中心に普及啓発事業を行っている。悉皆調査は計画的に調査を行う。

農業振興について

大村議員 農地法の改正を受けて、本町の主要作目である米の生産販売対策、コテージむら農場、アグリリサイクルセンター、農業指導センター、農業青年教育、菜種栽培、産学官の取り組み、わさび栽培、環境保全型農業をどう総括、検証、評価し対応するのか。

町長 これまでに進めてきた「雫石町農林業基本計画」「雫石町農林業行動計画」を基本とし、農業団体と連携した施策を推進するとともに、担い手農家や集落営農組織を育成強化したい。

大村議員 新型インフルエンザの流行は、国民の50%、約6千4百万人がかかるといわれ、ワクチンや抗ウイルス薬を使わなければ約6万4千人の死亡者が出るといわれている。ハイリスクとされるのは乳幼児、高齢者、妊婦、ぜんそくや糖尿病、重い腎不全など基礎疾患の人だといわれているが、その対策は。

町長 ハイリスクで重症化する恐れのある該当者に対し感染予防の周知のため、ホームページへの掲載と広報での周知徹底を図る。妊産婦については母子手帳交付時や乳児検診の際に日常生活の注意点の指導を行っている。雫石診療所では、ハイリスクとされる通院者に感染予防の注意を喚起しており、発熱者用の入口・待合室と診療室を別に設け、職員の防護服の着用など対応マニュアルを作成し模擬訓練を実施して受け入れ体制を整備している。

大村議員 雫石診療所では重症化の恐れのある感染者の入院措置はできるのか。

診療所事務長 入院はできず、盛岡市立病院や中央病院にお願いすることになる。

大村議員 新型インフルエンザによる感染死亡は呼吸不全によるもので、人工呼吸器が必要というメッセージがあるが、町内や近隣病院の人工呼吸器の準備状況、稼働状況を相互に把握できる体制はできているか。

保健課長 人工呼吸器の把握はしていない。

常任委員会●活動報告

調査実施日／平成21年9月7日
調査項目／所管事務調査、現地調査

合同

9月7日 地上デジタル放送に係るアンテナ設置状況の調査をしました。9月14日から試験電波を発信し、10月30日より本放送開始するとのことでした。



生森山山頂にて経営推進課から説明を受ける委員

9月7日 (仮称)町立健康センター建設進捗状況を調査しました。



工事の進捗状況を確認する委員

調査実施日／平成21年9月7日
調査項目／所管事務調査

総務

総務常任委員会（前田隆雄委員長）は、以下の所管事務調査を行いました。

1. 菜のテクノロジープロジェクトの現況と今後の課題について、経営推進課より説明を受け、今年度の作付面積は16haであり、今後拡大の考えはない。10aあたり105kgで16,732kgの収穫量で、kgあたり100円で(株)しずくいしが買い上げ、かし和の郷に委託し10月の産業祭りに出品予定であるとのこと。また、バイオディーゼルフューエルは22,336リットルの廃食用油を回収し、精製して13,258リットルを商品化し、1リットル当たり110円で販売しましたとの説明でありました。

2. (仮称)まちおこしセンターに備品購入の補正予算が計上されるのを受け、説明を求めました。

地場産品開発研究機能を推進するためのセンター内厨房備品等であることと、舞台、ギャラリー機能等の備品であるとのことでした。

また、今後の閉会中の継続調査事項は次のとおりです。

- 1 自立する町づくりについて
・ 景観に配慮した町づくり



中町のふれあいひろば内に設置されるまちおこしセンター

常任委員会●活動報告

調査実施日／平成21年7月16日、9月7日

調査項目／所管事務調査、陳情審査

教育民生

教育民生常任委員会（石亀貢委員長）は以下の所管事務調査を行いました。

7月16日 住民から要望があったありね山荘等へのあねっこバスの乗り入れについて町当局の考え方を確認するため担当課から説明を受けました。まず、あねっこバス運行事業の現況について住民課から説明を受け、全体の運行率や利用者数、二次交通への考え方を確認しました。また引き続き、産業振興課から説明を受け、スクールバスを活用した二次交通の構想やあねっこバス活用の可能性について説明を受けました。

9月7日 継続審査となっていた陳情1号肺炎球菌ワクチン公費助成について再度審査を行ない、その後の所管事務調査では9月定例会に関わる補正予算について担当課から説明を受けました。

また、今後の閉会中の継続調査事項は、次の通りです。

- 1 学校課題について
- 2 医療、福祉について



主要温泉地への交通手段拡大を

調査実施日／平成21年7月31日、8月25日、9月7日

調査項目／所管事務調査、現地調査

産業建設

産業建設常任委員会（猿子恵久委員長）は、以下の所管事務調査を行いました。

7月31日 雫石東八幡平奥地産業開発道路促進協議会総会に出席しました。

- ・平成20年度事業報告、平成21年度事業計画等を承認

- ・「一般県道雫石東八幡平線に係る今後の展望について」の研修

8月25日 「雫石町農業の諸課題と振興策について」本町出身JA新しいわて理事との意見交換会を実施しました。

9月7日 下川原地区水路整備工事に係る現地調査を実施後、産業振興課より、鶯宿温泉開発株式会社の補助金の状況と下川原地区水路整備工事について、説明を受けました。



産業振興課から現地で説明を受ける委員

また、今後の閉会中の継続調査事項は、次の通りです。

- 1 農業・観光の振興策について
- 2 特産品の開発について

先進地に学ぶ

～行政視察リポート～

総務常任委員会

7月13日から15日まで次のとおり所管に関わる調査を行いました。

- (1) 「景観に配慮したまちづくり」施策等について
(山形県大江町)
- (2) 「民間手法によるまちづくり」について
(福島県喜多方市)
- (3) 「特色あるまちづくり」について
(福島県猪苗代町)

山形県大江町では、自立（律）のまちづくりを進めている中で、特に景観に配慮したまちづくりの施策などについて学びました。平成19年4月1日に景観法に定める景観行政団体となり、町特有の良好な景観を保全や形成することにより、そこに暮らす人々の愛着を深めるとともに誇りを与え、町を訪れる人々をも魅了し、そして交流が促進されにぎわいと活気が生まれるとのことでした。また道路や公園などの公共施設は良好な景観の形成において先導的な役割を担っていました。景観条例に基づき景観計画を策定し、景観に影響を与える住宅等の建築に対して制限を設け、景観に配慮した町づくりを行っていました。景観形成は、百年の体系であり、町民の理解が大変重要であると感じました。

福島県喜多方市では「喜多方市ふるさと振興株式会社」について、民間手法によるまちづくりについて調査研究しました。平成4年6月に設立し、資本金7千600万円で、喜多方市が5千万円を出資しており、喜多方商工会の有志が会津北部開発株式会社として1

千万円を出資し、残りは地元金融機関が出資しているとのことでした。事業としては、地場産品等展示、販売と公の施設管理業務を行っており、取締役は地元金融機関関係者、監査役に公認会計士が就任しているなど当町の俤しすくいしとの違いを感じました。

福島県猪苗代町では「特色のあるまちづくり」として「有機の里構想」について学びました。「有機の里構想」とは、地域資源である人・物・お金・情報をできる限り地域内で循環させ、循環型地域社会を構築することであり、町内循環率を向上させ自己完結させることで人口減少対策、新たな産業の創出の可能性を探るとともに、町内経済の活性化や情報の共有と高度利用、さらには地球環境にも配慮した施策の展開を図るというものでした。具体的な事業として「蕎麦の里事業」を視察させていただき、そばを基軸としてあらゆる事業に発展させ、新たな地域経済システムの構築を図っていることに大いに感心させられ参考となりました。

教育民生常任委員会

7月8日から10日まで次のとおり所管に関わる調査を行いました。

- (1) 「健康の駅」の事業について
・いきいき健康づくり事業について
(新潟県見附市)
- (2) 「日本一の福祉のまち」の事業について
(新潟県加茂市)
- (3) 小学校の適正配置について
(新潟県東蒲原郡阿賀町)

健康の駅は、平成20年5月に見附市立病院に全国の公立病院で初めて設置されたものです。看護師が常駐し健康、医療、介護、福祉等の幅広い相談や、それらの情報発信をするほか、健康づくりの体験や自由に語れる交流を目的とした拠点でした。

「まちの駅ネーブルみつけ」はスーパーが撤退した建物を有効利用したもので、「まちの駅」と「健康の駅」が一体となったものでした。市場、喫茶コーナー、交流サロン、子育て支援センター、いきいき健康づくりセンターが施設内にあり、利用者が非常に多く活気がありました。この「いきいき健康づくりセンター」が健康の駅で、実際に運動をする実践の場となっていました。

健康チェック後に一人一人に個人の身体的特性や



大江町での研修の様子



見附市での研修の様子

能力に応じた個別プログラムが提供され、継続性を重視して取り組んでいるとのことでした。本町の健康センター内にも健康の駅があれば、お年寄りの健康づくりにかなり貢献できるものと思います。

日本一の福祉のまち加茂市には、市直営のヘルパーステーションがあり、70人のヘルパーさんがいます。市長直属の在宅介護・看護支援センター所長の下に統轄されていて、ホームヘルパーと看護師、保健師による介護料は無料で、利用者の1割負担がありません。ショートスティをすれば、本来は10割負担ですが、市がお金を払うので1割の自己負担ですむそうです。ヘルパーさんが市直轄の職員なので、介護に対する市内の情報が集めやすく、市内の現状を把握しているので、介護認定等の会議も短時間で終了するとのことでした。

市役所に提出する書類は、市の職員が全て記入してから本人に送るそうで、想像以上に至れり尽くせりの加茂市でした。本町でも高齢者の世帯には、こういった配慮が必要だと思います。

小学校の適正配置については、トップダウンではなく、町民に情報提供をして保護者の意識がしっかり固まってから、議会の理解を得て進めたほうが良いとのことでありました。阿賀町の場合は、小学校を統合してほしいと保護者から嘆願書が出てきたため、非常に統合がしやすかったそうです。また、小学校の統合については町内を一気に考えがちですが、何回かに分けて必要なところから実施すれば良いのだと教わった感じがしました。

産業建設常任委員会

7月6日から8日まで次のとおり所管にかかる調査を行いました。

- (1) 観光客の入込み状況と特産品販売の取り組みについて（北海道 中札内村）
- (2) プロジェクト北の杜の実施状況について

（北海道 美瑛町）

(3) 立地を活かした地域振興プロジェクトの概要について（北海道 安平町）

中札内村はチーズや生キャラメルで有名な花畑牧場があり、道の駅、開拓記念館、豆資料館と村内3カ所の美術館、レストランなどがあり、平成16年と平成20年の対比で観光入り込み客は7倍の100万1千人に急増し農家世帯197戸で農地7千haに麦、馬鈴薯、枝豆を主とする畑作と畜産を、各50%比率で専業化し、農業生産額も1戸平均約5千万円ということでした。平成10年には「有畜農業の村」を宣言し、今は食のパートナー事業として村内の食材で工夫を凝らした「粋匠品」16品と「食の応援団の店」12店も村で登録するなど積極的に特産品作りを推進していました。

美瑛町は日本で一番美しい村連合に加入しているだけに雄大な自然環境となだらかな丘陵など素晴らしい景観を有していました。道内札幌圏一極集中で他地域の経済衰退と空洞化を懸念し、北海道の縦軸である中川町、中頓別町と特性を活かしたツーリズムと新しい産業の創造を目的に3カ年の道単事業で100%助成金を受け、北海道大学やJR等と連携し地材地消のセカンドホームツーリズム、ハーブ活用のヘルスツーリズムの開発、普及に取り組んでいました。

安平町は昭和27年追分町と早来町が高校設立問題で分村していたが、平成18年に合併して誕生した町で、基本構想、総合計画は印刷以外は町民と職員のすべて手作りであり、移住新規就農者対策も条例を作り、人・財で助成、促進するなど意識に活力を感じました。一方で特産であるメロンは、昭和46年からピークの平成3年ころまでは組織も拡大し、栽培農家66戸、販売額も約5億3千万円であったが、夕張が商標登録後、抑制され現在は戸数も販売額も半減した。今後は栽培農家の確保や収穫期の長期化と高位標準化に努め、さらにアサヒメロンを普及促進していきたいとのことでした。



安平町での研修の様子

あの質問は…その後どうなった

追跡
レポート

町議会で行われた質問の中から2項目を選び、その提言が町政にどう反映されているのかを調査しました。



地デジ放送に係る難視聴地域への説明会の様子（上野沢行政区）

質 問

片子沢地域の水田用水である旭台のため池が老朽化による漏水で水路外から下流に流出している。早急の対応が必要だが対策は。

（平成20年10月議会）

処理状況

質 問

地上デジタル放送が2011年7月24日より開始されるが、難視聴地域の共同受信施設の対応を早急に行わなければ、災害発生時の情報受信などに問題が生じると思われるが対策はどうなっているか。

（平成20年12月議会）

処理状況

その後

本年9月下旬に測量調査の発注を行い、10月中旬に測量調査の地元説明会を予定している。説明会終了後に現場測量に入り、今年度は調査計画を行い、来年度の着工を目指している。

その後

本町でも七ツ森の地デジ中継局から10月30日より放送開始となる。難視聴地域についても既存の共聴組合施設や、新たに難視聴地域になると想定されるところの地デジ化に順次取り組んでおり、22年度までに整備を完了するべく地域住民への説明等を進めている。



水が抜けてしまった旭台のため池

追跡
レポート

クロスアップ アップ

改選後の新議員をシリーズで紹介しています。議席番号9番と11番の2名の議員が議員活動の抱負を語ります。

住民と議会を 結ぶかけ橋に

いしがめ みつぎ
石亀 貢 議員

(62歳・行政書士・無所属)



寒風山の祭りでの一コマ

地方分権の進展により、議会の役割と責任の重要性の増大で、開かれた議会、討論する議会、衆知を集める議会、行動する議会に向けて邁進し、自然と共生しながら健やかに暮らせる活力ある町づくりのかけ橋として努力します。

●プロフィール

平成15年4月初当選し現在2期目。教育民生常任委員長、議会運営委員、民生委員推薦会委員(議会選出)。家族は妻、長女、母、林行政区在住。

「一隅を照らす」を信条に 町民の信頼に応えたい

おおむら しょうとう
大村 昭東 議員

(68歳・農業・無所属)



96
歳
に
な
る
母
と



自宅にて盛岡一高女子
バレー部合宿訓練記念写真

世の中が大きく変わってきました。地方分権は明治維新、第二次世界大戦後の体制変革に次ぐ第三の改革であり、今ほど議員が住民代表として住民の声を議会を通じて反映させ、情報を住民に還元することが求められていることはありません。町民感覚に即して信頼される議員活動と議会改革の実践を、と思い巡らしております。

●プロフィール

雫石小学校、盛岡農業高校、県立農業講習所卒。県職員(農業改良普及員)を経て、雫石町に奉職。農林課長、総務課長を務め現在は農業に従事。町議会議員は平成15年に初当選し現在2期目。総務常任委員長を歴任し、現在、産業建設常任委員。岩手中央森林組合監事。座右の銘⇒是人生努力。人生訓⇒心田を耕す。趣味は自然散策、登山、農業。下町四行政区在住。



議会へのひとこと ——皆さんの声を聞きました



さ さ き わたる
佐々木 弥さん
(63歳・谷地行政区)



ね ざ わ しょうぞう
根澤 将藏さん
(65歳・片子沢行政区)



どう や つよし
堂屋 剛さん
(47歳・籬行政区)

町議会に 望む私の思い

住みよい町

県内外の市町村を転々とした後、雫石町に住んで12年になります。実感として自然環境とスポーツの体育施設が整備されており、これだけの環境のよい市町村はほかにないと思います。

また、昨年より自主防災等、コミュニティ活動を発足させ結ぶこの精神の復活。高齢化、少子化社会となっている現在、とてもよいことと思います。

さて、これから冬に向かいますが、除雪についてのお願いです。朝早くから除雪作業がなされ早朝出勤する私は感謝しております。その除雪作業をするにあたり、高齢者の方々のみの住まいの入口前はなるべく除雪の残量を少なくする作業工夫をしていただきたいと思います。除雪後の雪は重くて入口を片付けるには大変です。その負担を軽減するためご検討をお願いします。

私は雫石に生まれ育ち、東京、仙台、盛岡を勤務地として44年のサラリーマン生活を経て、2年前、生まれ家の農業を継いで1.2ヘクタール余の稲作と減反を集積した集落営農組合に携わりながらの専業農家として余生を送っております。

退職する数年前から町の主要産業である農業がこの先どうなるのだろうという不安から強い関心を抱くようになりました。

今、農業の将来を考えるに国の農業政策も大きく変わるであろうこと、地方分権のさらなる拡大とあいまって、町政における議会の役割が一段と重要なものとなるように考えます。その時、町の農業政策の長期的ビジョンを確立したうえでの推進をぜひお願いしたいものです。ちなみに最近私の感動したある新聞の論点欄に、関西学院大学の神野直彦教授の農業の持つ二つの役割、「共同体の人間関係を前提とした共同作業が作り出す人的環境」と、「生命を生産できる緑色植物の生産を生業とした人間の生存に必要な自然環境」、この二つの環境の再生が人類の潜在意識として持つ「ふるさと(故郷)感」を存続させるという記事があります。

私が生まれ育ち、そして死んでいく雫石がそんなビジョンを含んだ町づくりの視点で議論をしてほしいと願うものです。

座談会を 望む

町議会議員の方々のご苦労には、本当に感謝しています。

さて、先日の解散総選挙では長年続いた自民党が大敗し、民主党が政権を握りました。さまざまな公共事業の凍結、補助金等の見直しと従来のものとは全く異なったように思われる今日だと思います。

マニフェストを強調し、住民説明もなく強行するような姿勢には疑問を感じることがあります。十分な説明や話し合いの場がもっとあってもいいのではないかと思います。

そこで議員の方々に要望したいのは国、県、市町村と各自土俵は違うものの町議、町職員が各行政区ごとに座談会のような会合を年に一回程度でも開き、行政報告を兼ね住民の要望や苦情など生の声を多く聞き、行政に反映させていただければ幸いです。

ふるさとへの便り— 37



さわふじ りゅういち
在京雫石町友会 会員 澤藤 隆一さん

ふるさとの発展に期待して

2009年6月20日(土) 昼銀座ライオン6Fのホールで雫石町友会の会合があった。ちょうど東銀座の歌舞伎座向かいにある「いわて銀河プラザ」で雫石物産展が6月20、21日と開かれており、なるべく近い場所ということで今年は銀座ライオンとなったのだそうだ。「ふるさとへの便り-35」の谷地隆さんから誘われた。安庭時代の懐かしい人たちと会えて、昔話に花が咲いて、いっとき子供時代に帰れた気がして嬉しかった。仕事柄日本各地を歩いているが、雫石はとりわけ美しい。宮澤賢治ではないがユートピアならぬイーハトーブであろう。「ふるさとは遠きにありて思ふもの／そして悲しくうたふもの」という室生犀星の心持がわかる。今でも年6回ぐらい岩手に行く。

私の生家は今湖底である。親が代替地に家を建てる前に就職で故郷を後にした。すなわち水没した家から旅立った。その前の年に岩名目沢に近いところで魚をヤスで突いていた頭上で爆発音がして、目撃者でTVに出た。

就職して川越に住む。次に帰省したときは七ツ森のピッカピカの、前より大きい家だった。ふるさとに帰ってきた感じがしなかった。稲荷神社も熊野神社も無い。しかし御所湖は美しい、新たなふるさとの景観である。

私は長年少年野球の役員として子供たちの健全育成に注力している。一時一世を風靡した赤べこ野球軍団の盛岡出身高橋代表が隣町の所沢なので、下記写真のように西武ライオンズOBの野球教室を支援頂いた。この前に埼玉深谷、栃木、花巻、雫石の御所湖広域公園、矢巾で少年野球教室をしたそうだ。

いま大学、高校の同窓会やら東大の研究会やらいろいろなグループの幹事をしている。仕事はクリーンルームや恒温恒湿室製作、植物工場、豚鶏育成舎の環境制御などで、精密空調技術で世界中に装置を輸出している。政治経済の維新によりこれから世の中は変わる。雫石の農業や畜産業がこれから脚光を浴びてくるだろう。



2006年10月28日 左より広野 功氏、伊原春樹氏、筆者、高橋正明氏、松沼博久氏

澤藤 隆一さんプロフィール

昭和25年生まれ。御所・安庭出身。埼玉県ふじみ野市在住。安庭小学校、御所中学校、盛岡第一高等学校、岩手大学工学部電気工学科昭和47年卒業、東京都板橋区の(株)千野製作所(現(株)チノー)入社。現在三基計装(株)代表取締役社長、岩手大学電気電子情報科会東京支部長、在京白鷺43会ホームページ管理人、東京もりおかふるさと会幹事、MIUサポーター、災害事例研究会事務局、少年野球役員他

雫石町へようこそ

お嫁さん

お婿さん



結婚式での1コマ

ご縁があり、他の市町村から嫁いできた「お嫁さん」または、選ばれてきた「お婿さん」が登場します。

ふじえだ まさみち
藤枝 正道さん (29歳 盛岡市出身)

(旧姓：立花) ひろこ
弘子さん (27歳 盛岡市玉山区出身)
(極楽野行政区在住)

Q-雫石町にお住いになった理由は？

-以前から農業に興味があり、会社勤めを辞め、3年前に極楽野地区に就農したからです。

Q-雫石町で暮らしてみているいかがですか？

-私は消防団や地域の野球チームに所属し、皆さんにとっても温かく迎えていただいたので、すぐに解け込むことができました。感謝しています。

Q-町へ望むことは？

-両親と蕎麦屋(十割そば しんざん)を営んでいるので、観光客が増えてくれるとうれしいです。

Q-お子さんは？

-順調にいくと来年の4月に第一子が生まれる予定です。二人くらいは欲しいですね。

議会の主な動き 8～10月

8月

- 6日 議員全員協議会、岩手郡議員大会
- 14日 政務調査会
- 15日 雫石よしゃれ祭り
- 22日 安庭小学校相撲場土俵開き
- 25日 議会運営委員会
- 27日 中央研修会
- 28日 県選出国会議員との懇談会
- 31日 知事を囲む懇談会

9月

- 1日 町戦没者追悼式、盛岡横手線道路整備同盟会総会
- 4日 第7回町議会定例会開会、議会広報編集特別委員会

- 6日 雫石町総合防災訓練
- 7日 常任委員会
- 8～9日 本会議(一般質問)
- 10日 本会議
- 11日 決算特別委員会
- 14～15日 決算特別委員会、政務調査会(15日)
- 16日 本会議
- 25日 県議長会第2回政務調査会
- 29日 議会広報研修視察受け入れ(宮城県利府町来町)
- 30日 県議長会創立60周年記念講演式典

10月

- 9日 議会広報編集特別委員会
- 15日 政務調査会、議会広報編集特別委員会
- 16日 第2回委員長研修会
- 17～18日 しずくいし産業まつり
- 21日 岩手郡町村議会議長会中央実行運動
- 22～23日 岩手郡町村議会議長会県外視察研修(長野県)
- 29～30日 岩手県町村議会議長会町村議会広報担当者研修会

情報公開

●議長交際費執行状況

【議長交際費とは】
議長等が議会を代表し、外部との交渉、情報収集、町政協力者への謝意を表すために係る経費で、会費や香典などです。

【議長交際費内訳(7～9月)】

月	葬祭費	お祝い、会費
7	0件 ー	3件 12,000円
8	0件 ー	3件 18,000円
9	0件 ー	2件 8,000円
小計	0件 ー	8件 38,000円
総計(1月～9月)	0件 ー	34件 169,000円

■編集デスク

近年にない大型と言われた台風18号は日本各地で猛威をふるい、甚大な被害と犠牲者を出しました。被害を受けられた方々にお見舞い申し上げます。幸いにも本町では心配された被害や農家の刈り入れにも大きな影響はなく安堵しているところです。紅葉も一段と色合いを増し朝夕は肌寒く感じる頃となりました。

新体制で2回目の発行となりますが、多くの町民にご愛読いただき、議会活動をより理解いただくために「見てもらえる紙面づくり」を心がけ、編集委員一同、一層の努力をしてみたいと思いますのでご意見、ご要望などありましたらぜひお寄せください。

(編集副委員長 石山 仁)

●今号の表紙/本誌の表紙は、「まちの笑顔」シリーズでお届けいたしております。笑顔が絶えないまちの元気な子供たちの様子を紹介。今回は、「七ツ森小学校」に通う生徒たちの笑顔です。